

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

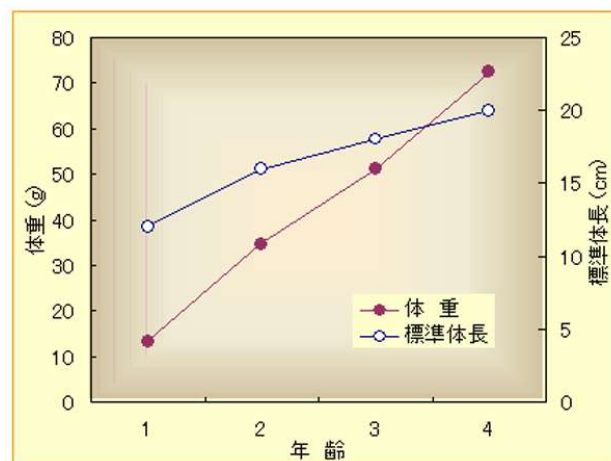
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特徴

寿命： 5歳
成熟開始年齢： 1.5歳
産卵期・産卵場： 周年産卵するが、産卵のピークは春と秋、産卵場は不明
索餌期・索餌場： 周年水深100～200mで索餌
食性： オキアミなどの浮遊性小型甲殻類
捕食者： 不明

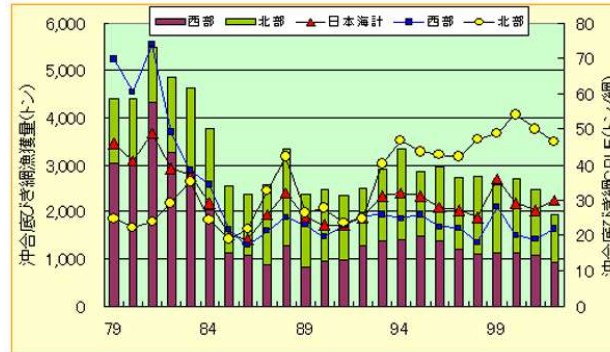
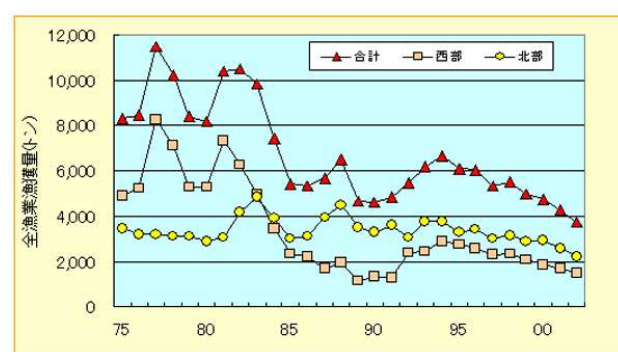


漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県沿岸の太平洋岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網、小型底びき網で漁獲されている。

漁獲の動向

漁獲量の推移をみると、1975年以降では1977年の11,463トンピークに、1983年までは8,000～12,000トンで変動していた。しかし、1984年以降減少し、1989～1991年には5,000トン以下にまで落ち込んだ。1992年以降はやや増加し、1994年には6,600トンまでに増加したが、その後漸減傾向が見られ、2002年は3,700トンであった。

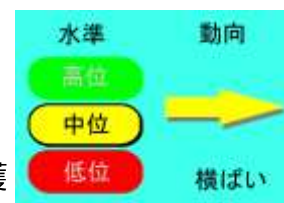


資源評価法

沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づき、日本海北部（石川県加賀沖以北）と日本海西部（福井県若狭沖以西）および日本海全体の沖合底びき網による漁獲量とCPUE（kg／網）の推移(1979～2002年)から資源評価を行った。

資源状態

日本海西部では沖合底びき網（1そうびき）のCPUEが若干低い値となっているが、過去15年の増減の範囲内にあるうえ、2002年は前年より高くなっており、今後急速に資源状態が悪化することはないと考える。また、日本海北部では沖合底びき網（1そうびき）の漁獲量、CPUEともに良好な値を示しており、資源状態は安定していると考えられる。日本海全体では沖合底びき網（1そうびき）の漁獲量、CPUEともに最近10年間では安定して推移しているため、資源状態は安定していると判断した。CPUEが良好であった1980年代前半を高位とすると、現在の資源水準は中位、動向は横ばいと判断した。



管理方策

日本海全体では、沖合底びき網（1そうびき）のCPUEは最近10年間では安定して推移しているため、資源状態は中位で安定している。しかし、近年CPUEに比べ漁獲量が低下しているため、漁獲努力量は低く抑えられていると考え、漁獲圧は現状を維持しても良いと判断した。そこで、過去3年間(2000～2002年)の平均漁獲量をABClimitとした。ABClimitの9割にあたる3,900トンとABCtargetとした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	43百トン	Cave3-yr	-	-
A B C target	39百トン	0.9ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 沖合底びき網（1そうびき）のCPUEは最近10年間では安定している
- 資源水準は中位で、動向は横ばいである
- 近年の漁獲量の低下は、漁獲努力量の減少によると考えられる

資源管理方策のまとめ

- 管理目標は漁獲圧の現状維持
 - 小型魚の投棄を減らすことも重要
-

資源評価は毎年更新されます。